

第3次長期プラン折り返しの年へ

M&Aで新ビジネス分野に進出

福島宏治 福山コンサルティング社長

―国土強靱化政策のもと、防災・減災をはじめ、インフラ老朽化対策としての公共事業投資が継続しています。

福島 点検、モニタリング、診断などの分野を中心とした需要が増加しており、関連部門の受注高は前年同期比1.3倍と堅調です。また、国の採択を受けた国道3号久留米大橋での無線センサによるモニタリング実証実験は、来年度には検証結果が出る予定で、来期中には本格的に展開できそうです。

―今期（16年6月期）は第3次長期プランの中間年次ですね。現況はいかがですか。



福島 「デュアルモード戦略」と銘打った既存事業の強化と新ビジネス領域事業の獲得戦略を進めてきました。折り返し点となる今年7月以降については、戦略レビューと統合を進め、企業集団の進化と価値向上を目指す考えです。進捗を踏まえて一部を改訂中の長期プランは、今年度中の発表を予定しています。

―昨年7月に新規事業推進室を設置されました。具体的な取り組み内容は。

福島 新分野の開拓、新技術の開発で既存事業の増強を図るのが狙いです。専任者とインキュベーターを配置し、2年後の本格事業化を見据えて取り組んでいます。内容は官民連携事業、モニタリング、水環境、海外事業の案件化調査、ビッグデータ活用事業など多岐にわたっています。各テーマに横断的に関わっていくことで、社員の成長を促

す触媒効果も出ています。

官民連携事業の一つであるコミュニティサイクル（自転車共同利用システム）事業は、姫路市の社会実験事業「姫ちゃり」として昨年10月にスタートしました。試行的にスマートフォンのアンケートで移動経路や滞在時間などを把握しており、今後観光施策への活用を検討していきます。また、海外事業ではすでにマレーシアとベトナムで2件受注するとともに、福岡市の「国際ビジネス展開プラットフォーム」に加盟し、地元企業と連携した新たなビジネス機会の創出を図っています。

―民間を中心とした新ビジネスについては。

福島 M&Aや業務提携を視野に有資格者の採用や外部知見を取り入れて進めています。新規事業と新ビジネスで5億円を投資する計画です。

一定の手応えが見えた時点で、グループ戦略の一体的推進強化を目指した持ち株会社編制への移行も準備中で、間接部門の集約管理会社を今年度中に設立する予定です。創業70周年を迎える2020年6月期までに、建設コンサルティング事業70億円、新ビジネス30億円で売上高100億円の達成が目標です。

―その他取り組みたいことはありますか。

福島 労働環境の改善に力を入れ、報酬体系の再構築やワークライフバランスの充実を図ります。すでにワーキングチームをつくり、社員と一体的に検討を重ねています。人材面では、技術士、学位取得支援制度を活用し、次世代を担う中核技術者の育成に努め、底上げを図ります。既存支社などの中で古くなっていたり、手狭になっている拠点に関しては、リニューアル、移転などを含めて再整備していく構えです。マネジメントの強化、役割の明確化を念頭に、事業を成長軌道に乗せ、次のステップへ弾みをつけていきます。